



「医学検査のあゆみ」シリーズを はじめるにあたって

まだ敗戦の混乱が残る 1955 年に栄研化学が収益の社会還元の一環として、学術情報誌『モダンメディア』を創刊し、丁度、半世紀となる。

終戦後、急速な米国医学のわが国への流入は、わが国の医学、医療に大きな衝撃を与えた。特に、臨床検査医学（臨床病理学）の分野ではその影響は劇的であった。この半世紀の間に、華々しく臨床検査の舞台に登場したものの、つかの間に消えていったものも多い。本誌が創刊され半世紀を過ぎた現時点で、臨床検査の過去を振り返り、臨床的評価に耐え定着した検査と新しい検査に置き換わった項目、あるいは臨床検査に密接に関連した概念の変化やシステム・制度の変遷、さらに現状の問題点そして将来への夢と展望までを含んで、新シリーズ「臨床検査のあゆみ」を始めることは時宜を得たことであろう。

この際、編集委員会で話題となったことは、どのような項目を取り上げ、どなたにこの難しい原稿を依頼するかである。幸い、本誌では、微生物、免疫、生化学、遺伝子等の医学検査や食品公衆衛生など多岐にわたる分野に関して話題を取り上げ、それぞれの領域でご活躍中の先生方に平易な解説をいただいていた歴史がある。なかでも、長期にわたり連載している記事に、「臨床検査ひとくちメモ」がある。その時々の臨床検査の話題が良くまとまっている Q&A 方式によるこの記事の掲載が始まったのは、1984 年（第 30 巻）であるので、もう 20 年以上も続いていることになる。編集者の一人として、まずは、この「臨床検査ひとくちメモ」の中から、現在でも普遍性のあるテーマを選び、かつてこのテーマを執筆された方に再度、ご自身で解説をしていただくか、あるいは新たな執筆者をご推薦していただくことにした。いずれにしても大変であるこの原稿をお引き受けいただいた先生方に感謝をするとともに、今後は「臨床検査ひとくちメモ」にこだわらず、「環境医学」、「食品衛生」など幅広い分野の「医学検査のあゆみ」を取り上げたいと思っている。

そのために、新シリーズのテーマについて、読者の皆様の他薦、自薦をお待ちしている次第である

日本大学医学部 臨床検査医学

熊坂 一成